

〔学術データベース企画報告〕 学部所属交換 留学生の歓迎会

国際交流委員＋執行部

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化 / 異文化

(巻 / Volume)

15

(開始ページ / Start Page)

31

(終了ページ / End Page)

32

(発行年 / Year)

2014-04

[学術データベース企画報告]

学部所属交換留学生の歓迎会

国際交流委員 + 執行部

国際文化学部は1999年の学部開設当初から基本的に全学生をSA (Study Abroad) で海外に送り出すことを学部教育の大きな特徴としてきた。一方で受け入れ態勢は遅れ、留学生入試の実施は2011年度からであり、また日本語能力を重視した現行の方式では、入ってくるのは韓国・中国（香港を含む）・台湾など、近隣の東アジア諸国の出身者にほぼ限られると思われる。7言語10ヶ国16大学に学生を送出しているSA制度と照応して、多言語・多国家から留学生を受け入れる学部独自の制度が整うことが理想だが、現実的には難しい。

そこで今年度、大学間の協定で半年ないし1年間来校し、従来は書類上だけにすぎなかった本学部所属の交換留学生を歓迎する催しを、学術データベース学部共通費を使って実施することを発案し、学内にいる欧米系の留学生と学部学生の交流の第一歩とした。秋学期、本学部ではイギリス2名、フランス3名、ドイツ1名、ラトビア1名の7名を新規に受け入れたが、この春から継続して在籍するドイツの2名を加えた合計9名に案内状を送付した。当日はこの一部と、他学部に在籍する交換留学生なども来場し、学部学生および教職員を含めた約40人で楽しいひとときを過ごした。

特筆すべきは、この歓迎会を発案し予算を確保したのは学部だが、実際の準備作業や当日の運営など一切を、呼びかけに応じて集まった学部学生20数名が協力して担ったことである。交流の内容も学生たちの創意工夫で、椅子取りゲームのほか、PCで大学周辺や居酒屋の紹介をしたり、法政大学に関するクイズを出したりした。日本文化の

紹介として手巻き寿司の材料を用意し留学生に自分でつくって食べてもらったり、各種の和菓子を取り揃えたりした。司会進行は基本的に英語で、歓迎のスピーチも SA でレベルアップさせた英語・フランス語・ロシア語で行なった。この交流の様子は、大学のウェブ上でも紹介された。

今回のイベントが契機となり、交換留学生と学部学生との継続的な交流が促進され、「内なる国際化」環境整備の一助となることが期待される。将来的には、こうした学部所属の交換留学生と学部生が、授業のなかで交流しながら学べるような仕組みをつくることも、グローバル化推進に向けた検討課題と言えよう。



手巻き寿司に挑戦する交換留学生たち

-
- 日 時：2013年9月28日（土） 15：30～17：30
 - 場 所：法政大学ボアソナード・タワー 25階 B会議室
 - 内 容：歓迎スピーチ、手巻き寿司づくり、ゲーム、クイズ、など。
終了後にキャンパスツアー
-